

(3) 調査結果の分析

1) 認知度・利用経験との相関

回答者の居住地とびわこ文化公園都市の認知度・利用経験との相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では利用経験が約8割に達する一方、湖東地域、湖北地域では5割以下の認知度、利用経験となっている。

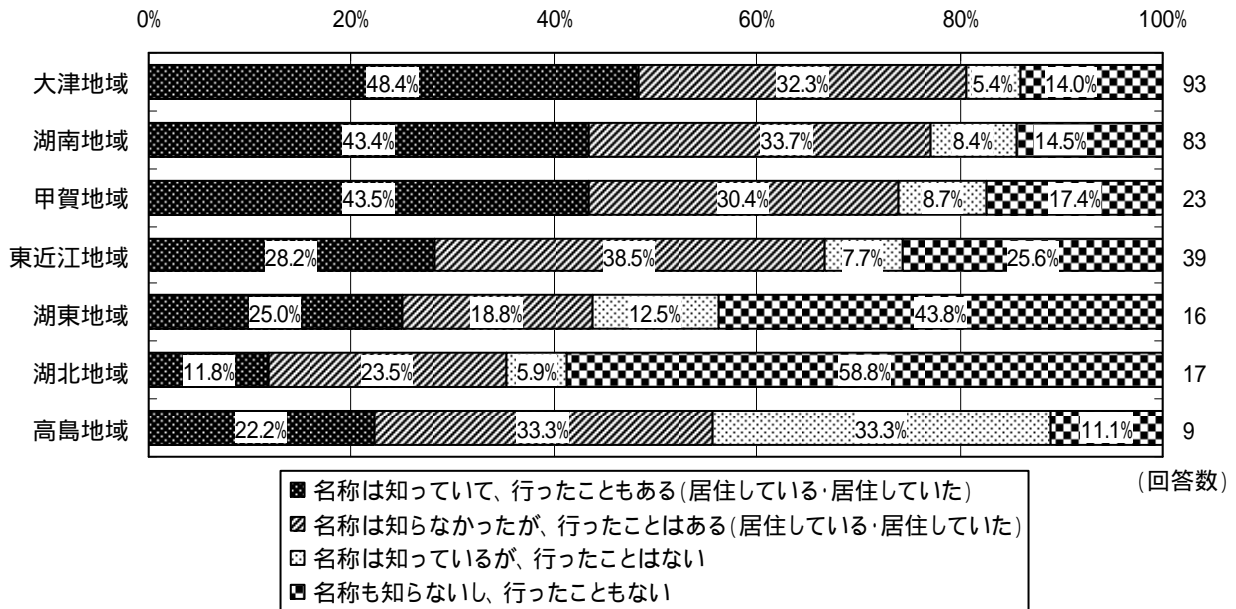


図 51 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者居住地の相関

回答者の年齢区分と認知度・利用経験との相関をみると、年齢が高くなるほど認知度、利用経験は上昇し、10歳代～30歳代で約5割程度である利用経験が60歳代以上では約8割となる。

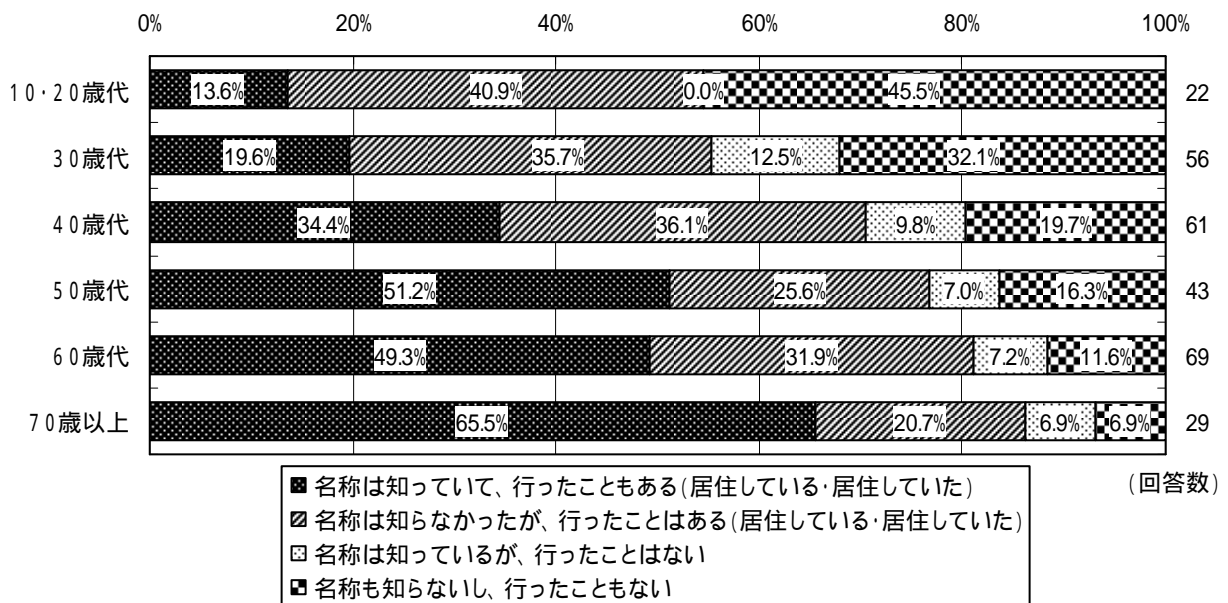


図 52 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者年齢区分の相関

2) 利用施設との相関

びわこ文化公園都市の区域内の施設・機関等について、施設の目的・機能ごとに「芸術・文化」「医療・福祉」「教育・研究」「レクリエーション」「住宅」「その他」に区分し、調査結果との相関を分析した。

びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関をみると、芸術・文化施設の利用が40歳代～50歳代にかけて比較的割合が高くなっている。

医療・福祉施設は、70歳以上で約30%を占める他は各年齢区分とも25%前後となっている。

また、教育・研究施設は10・20歳代で約34%となるのに次いで、60歳代約29%、70歳以上約26.2%と高い割合を示しており、生涯学習の場として利用されていることが伺える。

表 20 びわこ文化公園都市 施設区分

施設名	施設区分	
4 県立近代美術館	芸術・文化	
5 県立図書館		
6 県埋蔵文化財センター		
9 滋賀医科大学付属病院		医療・福祉
10 日赤滋賀県赤十字血液センター		
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター		
12 福祉用具センター		
13 社団法人滋賀県薬剤師会		
14 中央子ども家庭相談センター		
15 歯科技工士専門学校・総合センター		
16 びわこ学園医療福祉センター草津		
17 精神保健福祉センター		
18 精神医療センター		
19 草津養護学校		
20 むれやま荘		
21 障害者更生相談所		
22 障害者福祉センター		
23 メイプル滋賀工場	教育・研究	
2 龍谷大学瀬田キャンパス		
7 東大津高校		
8 滋賀医科大学		
24 京都大学生態学研究センター		
25 立命館大学びわこくさつキャンパス	レクリエーション	
1 県立アイスアリーナ		
3 都市公園びわこ文化公園		
26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	住宅	
27 その他	その他	

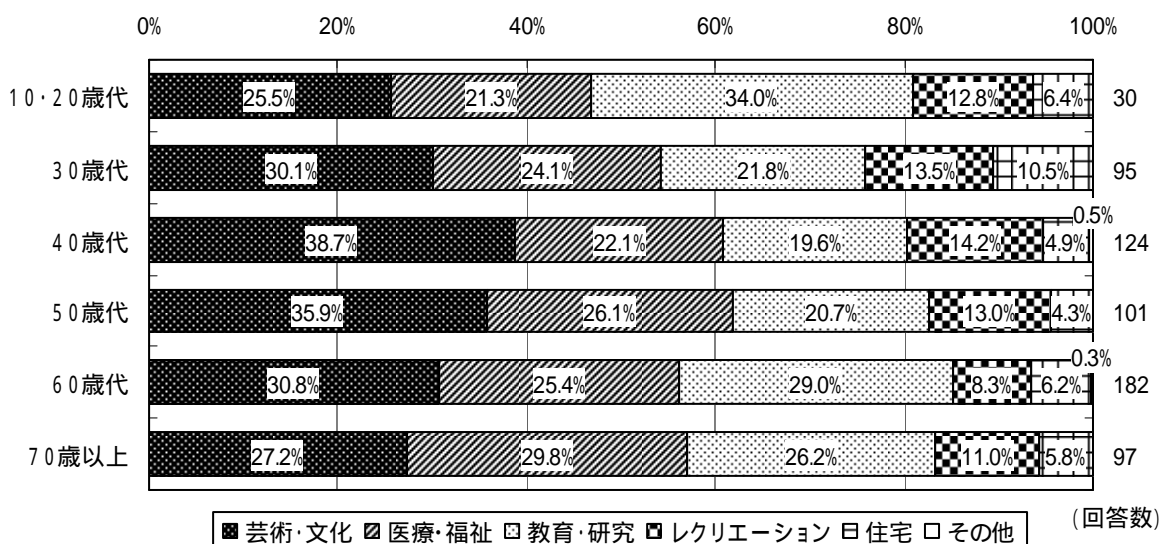


図 53 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関

利用施設区分と回答者居住地の相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では教育・研究施設及び住宅の割合が比較的高くなっている。その他地域では、湖北地域を除き芸術・文化施設の割合が高くなっており、湖北地域では医療・福祉施設の割合が高くなっている。またレクリエーション施設は大津地域及び湖東地域からの利用が比較的高くなっている。

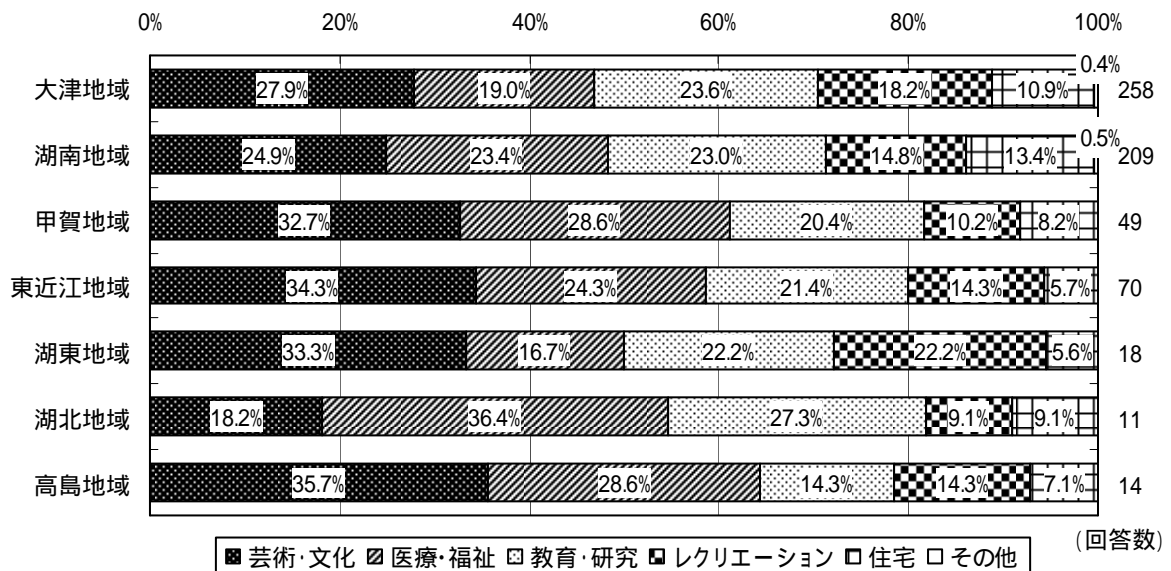


図 54 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市のイメージについて「そう思う」と回答した割合が高い上位 5 項目について、利用施設区分との相関をみると、『自然・緑が豊かで癒される』『文化的な雰囲気があり心豊かになる』の項目について、芸術・文化施設を利用する回答者の割合が比較的高くなっている。

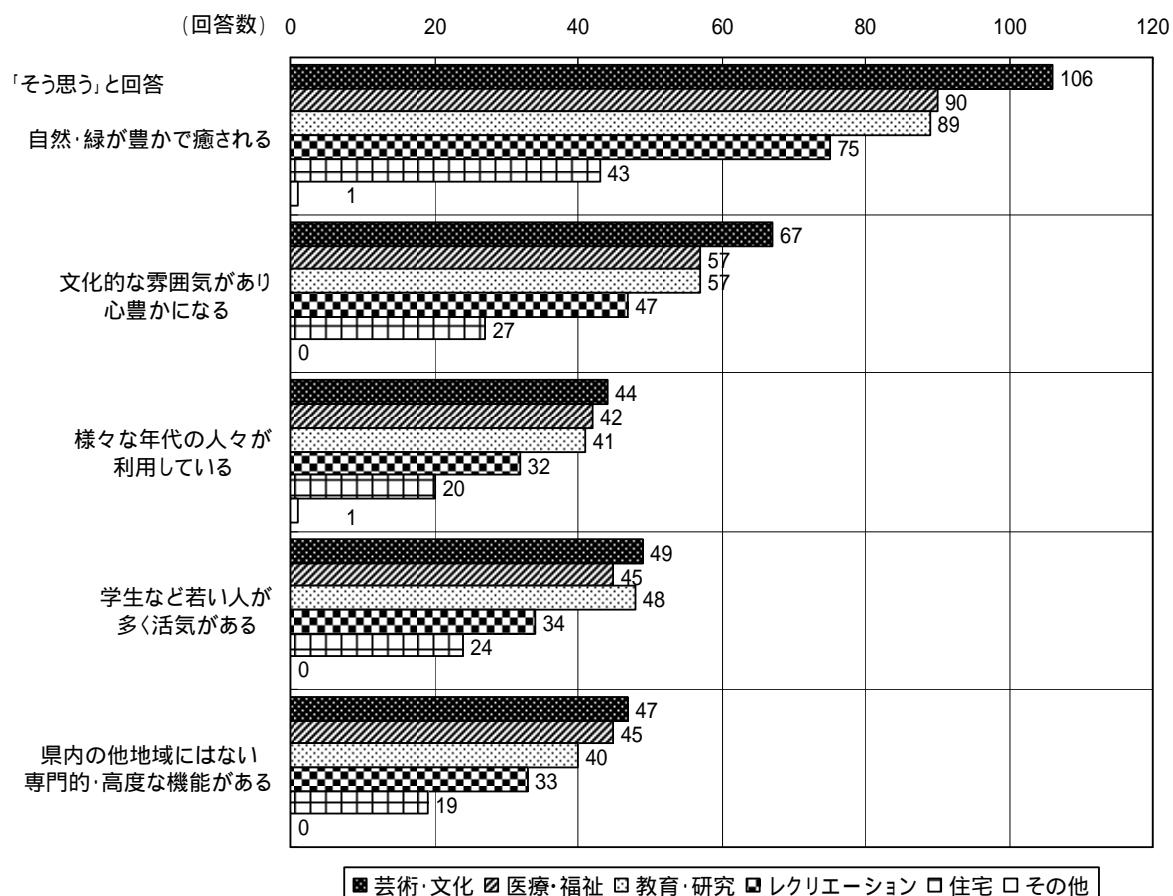


図 55 びわこ文化公園都市の利用施設区分とびわこ文化公園都市イメージの相関

3) 利用交通手段との相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段(「よく利用する」と回答した項目)と回答者居住地の相関をみると、各地域とも自家用車の利用が最も高くなっているが、近隣の天津地域、湖南地域、甲賀地域からは自転車や徒歩でのアクセスがみられる。特に天津地域では、自家用車(約73%)、路線バス(約14%)に次いで自転車(約10%)の利用割合が高くなっている。

一方、遠方からのアクセスでは、湖東地域(約33%)、湖北地域(約20%)と、利用者の2割以上が路線バスを利用する。これらの地域からは鉄道-路線バスの乗り継ぎによるアクセスが行われていると考えられる。さらに以遠の高島地域からは、自家用車の利用が100%となる。

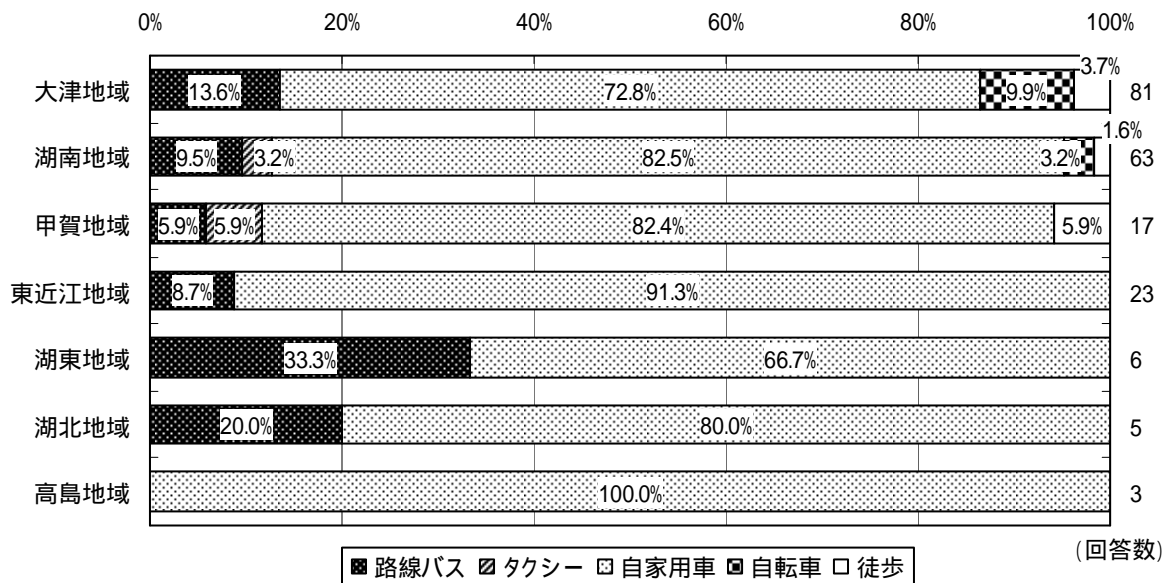


図 56 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段(「よく利用する」と回答した項目)と利用施設の相関をみると、各施設とも自家用車の利用が最も高くなっているが、『中央子ども家庭相談センター』『びわこ学園医療福祉センター草津』『福祉用具センター』等の福祉関係施設において、路線バス利用の割合が高くなっている。

これら福祉館系施設ではまた、タクシーの利用割合も高くなっている。

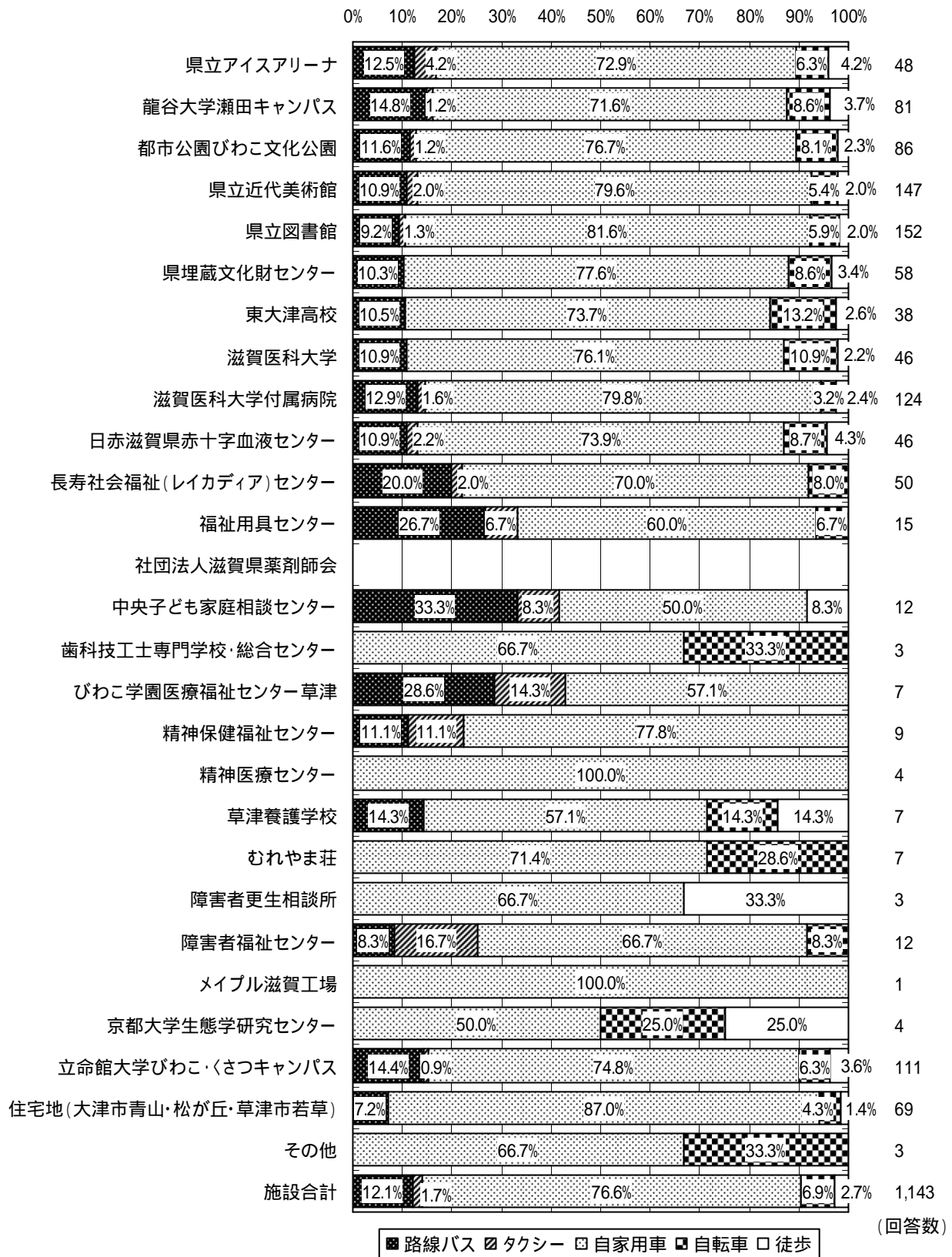


図 57 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と利用施設の相関

6. びわこ文化公園都市の各施設に対するヒアリング調査の結果

びわこ文化公園都市に立地する 25 の施設・機関の代表者に対し、びわこ文化公園都市に関する課題や将来に向けた意向等についてアンケート調査およびヒアリング調査を実施し、以下に概要をまとめた。

(1) びわこ文化公園都市に立地することに対する評価

びわこ文化公園都市に立地することに関して、どのような点を評価しているかについて、下表の項目から回答を求めた（複数回答可）。その結果、「豊かな緑に囲まれ落ち着いた環境である」が 23 件と最も多く、次いで、「車でのアクセスがよい」（13 件）、「利用しやすい文化施設や都市公園が整備されている」（7 件）などが多かった。

表 21 びわこ文化公園都市に立地することに対する評価

項目	回答数
豊かな緑に囲まれ落ち着いた環境である	23
貴施設の機能や役割の面から地理的に適当な位置にある	5
車でのアクセスがよい	13
公共交通機関でのアクセスがよい	3
必要な敷地を確保できる	2
多様な施設・機関が集積しており連携・交流が容易である	3
利用しやすい文化施設や都市公園が整備されている	7
大学が集積し若者が多い	3

(2) びわこ文化公園都市に関する課題

1) アンケート調査におけるびわこ文化公園都市に関する課題

びわこ文化公園都市に関する課題について、下表の項目から回答を求めた（複数回答可）。その結果、「公共交通機関によるアクセスの不便さ」が 19 件と最も多く、次いで、「食事や買い物をする場所が少ない」（17 件）、「地域住民等との関わりや連携が不足している」（10 件）、「びわこ文化公園都市内での施設間の移動が不便」（10 件）などが多かった。

表 22 びわこ文化公園都市に関する課題

項目	回答数
公共交通機関によるアクセスの不便さ	19
駐車場の不足	11
食事や買い物をする場所が少ない	17
施設の拡張が難しい	7
それぞれの施設間の連携や交流が少ない	7
地域住民等との関わりや連携が不足している	10
治安上問題がある	5
びわこ文化公園都市内での施設間の移動が不便	10
防災上問題がある	2
樹林地などで荒れている箇所がある	9
有効に利用されていない区域がある	6
その他	1

2) ヒアリング調査におけるびわこ文化公園都市に関する課題

ヒアリング調査の結果から、各施設・機関によるびわこ文化公園都市の課題に関する意見について、下表に概要をまとめた。

表 23 びわこ文化公園都市に関する課題

大分類	小分類	内容
交通に関する課題	びわこ文化公園都市へのアクセスに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 駅から遠いため、公共交通によるアクセスが不便である。 ・滋賀医大附属病院までのバスの便数は比較的多いが、福祉ゾーンまで来るバスが少ない。 ・文化施設とバス停がある場所とが離れているため、高齢者等が利用しにくい。 ・当該地域と南側の田上地区とを結ぶ道路が未整備なため、アクセスが不便である。
	びわこ文化公園都市内の移動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設間の距離が離れており、また、施設間をつなぐバスの路線も少ないため、徒歩やバスでの移動が難しい。
	歩行者や車椅子利用者に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の幅が狭く、管理状態も悪いため、徒歩や車椅子で移動しにくい箇所がある。
施設等に関する課題	駐車場の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園（文化ゾーン）の駐車場の容量が足りておらず、利用者の多い土日には、満車になることが多い。 ・福祉施設の駐車場についても、足りていない施設が多い。
	サービス施設の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や買い物ができる場所が少ないため、不便である。
	樹林等の管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林地などに下草が繁茂しており、景観が悪くなっている。
	敷地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林のまま残されており、有効に利用されていない区域がある。
安全性に関する課題	街灯の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯が少なく、交番も無いため、日没後などに不安を感じることもある。
	交通量の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路の交通量が増加しており、注意を要する。
規制等に関する課題	イベント利用等に関する規制	<ul style="list-style-type: none"> ・各種法規制等のため、イベントなどで活用することが難しい。
	施設拡張の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制のため、施設を拡張することが難しい。
PR や案内表示等に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園都市の知名度がまだまだ低く、どのような施設があるかということが、あまり伝わっていない。 ・施設に関する案内標識等が分かりにくい。
連携や交流に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・施設間の交流、特に分野の異なる施設との交流が少なく、びわこ文化公園都市としての一体感に乏しい。 ・施設間での交流が少ないため、互いの取組の内容などについての情報が不足している。 ・施設同士の公的な連携体制が無い場合、連携事業や共同研究などを行うことが難しい。

(3) びわこ文化公園都市の将来に向けた意向

ヒアリング調査の結果から、各施設・機関によるびわこ文化公園都市の将来に向けた意向について、下表に概要をまとめた。

表 24 びわこ文化公園都市の将来に向けた意向

大分類	小分類	内容
全体的な将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・文化の情報発信基地としてのさらなる活性化。 ・樹林地等の管理や街灯整備などによるびわこ文化公園都市全体の環境の向上。 ・瀬田丘陵生産遺跡群などの歴史を活かした文化公園都市のあり方の検討。 ・森林の魅力を活かすとともに、既存の施設等を活性化することによるびわこ文化公園都市の魅力の充実。
施設間の連携の強化	情報交流や協議の場の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の間で情報交流や連携に関する提案などができる交流の場の設置。 ・防災などの具体的なテーマに応じた施設間の協議の場の設置。
	連携事業等の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設、医療・福祉施設、学校等の連携によるサービスや事業、イベント等の実施による利用の活性化。 ・大学と福祉施設等との連携による共同研究の促進。 ・福祉施設と美術館との連携によるアール・ブリュットの取組の検討。 ・施設間での駐車場の融通や利用料金の軽減などの、相互協力の仕組み。 ・各施設の従業者のための保育所など、福利厚生施設の共有に関する検討。
	情報通信基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・光ケーブルによるネットワークなどの情報通信基盤の整備による施設間の連携の強化。
交通システムに関する検討	公共交通等によるアクセス性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの増便やルートの見直し、バス停の位置の検討などによるJR駅からのアクセスの向上。 ・当該地域南側の田上地区等からのアクセスの向上。
	びわこ文化公園都市内の施設間のアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園都市内の各施設をつなぎ、巡回するバス路線の整備による利便性の向上。 ・びわこ文化公園都市内における新しい交通システムの検討(コミュニティバス、レンタサイクル、セグウェイ等)。
	車椅子や徒歩で通行しやすい歩道等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の通行可能な歩道や、自転車と歩行者の分離などによる、公園内の各ゾーンをつなぐ、安全で歩きやすい歩道の整備。
便益施設等の整備	駐車場の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ゾーンの駐車場の拡張整備。 ・福祉ゾーンの各施設が共有できる駐車場の整備。 ・未利用の区域を活用した駐車場の整備。
	サービス施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や買い物ができる場所の整備。
	街灯の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯の整備、充実。
都市公園区域の利用活性化	イベント等に関する規制の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・規制の緩和などによる、イベント利用の促進。
	公園施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・野外ステージの設置による公園のイベント利用の活性化。 ・四季の花が楽しめるなど、多くの県民が憩えるような場としての魅力の充実。

産官学連携の拠点としての機能の強化	研究施設の誘致等による集積の強化	・工業技術センターの誘致などによる、研究施設の集積による研究開発拠点としての機能の強化。
	大学、企業等が共用できる研究開発施設の設置	・各大学や企業等が共用できる研究開発施設の設置による、産官学連携拠点としての機能の強化。 ・海外企業が拠点を置けるような研究開発施設の設置による、国際競争力の強化。
	医工連携に関する特区の設置	・特区の設置等による、既存の大学等の集積を活かした、医学と理工学の連携促進。
教育・研究の拠点としての機能の充実		・大学等の教育、研究機関の集積を活かし、国際的な競争力のある学術研究都市としての機能の充実。
医療・福祉の拠点としての機能の充実	福祉関連施設の集積の強化	・福祉関連施設の集積強化による県の福祉拠点としての機能の充実。
	医療に関する施設等の整備	・閑静で緑豊かな環境を活かしたガン患者の緩和ケア施設や、先進医療を実施する高度医療センターなどの整備。 ・自然環境や医療・福祉関連施設の集積を活かした、患者等の回復過程を支援できるような仕組みの検討。
交流の拠点となる施設等の検討	交流の拠点となる施設の設置	・地域住民や学生、各施設の利用者等の憩いや交流の場となり、各種活動や施設間連携の拠点となる施設の設置。 ・学生やNPO等への運営の委託。 ・地域住民や福祉施設利用者等が気軽に立ち寄れて、交流することができる、喫茶やコンサートなどに使用できる共有スペースの設置。 ・福祉等に関わるNPOなどが拠点を置くことができ、組織間の連携などが図れる施設の設置。
	屋外の交流スペースの整備	・福祉施設等の利用者が、菜園やガーデニングなどができる屋外の共有スペースの整備。
新たな施設等の導入	博物館等の整備	・滋賀の仏像文化を活かした博物館等の整備による、他府県も含めた利用の活性化。
	スポーツ施設の整備	・スポーツ関連施設の導入による生涯スポーツの拠点としての整備。
	文化関連施設の充実	・東側の区域における文化をシンボライズする施設の整備の検討。
PRや案内標識などの改善検討	PR等の充実	・県民に親しみを持ってもらえる名称への変更の検討。 ・びわこ文化公園都市に関する広報、周知の充実。
	案内標識等の改善	・道路上の案内標識やJR駅での案内などの充実。
樹林地等の管理・整備	遊歩道等の整備	・山林などを活用した遊歩道やアスレチックなどの整備。
	樹林地等の管理の推進	・樹林地や街路樹等の適切な管理の推進。
その他	対象区域の見直し	・隣接地などを含めたびわこ文化公園都市の対象区域の見直し、および一体的な活用。
	開発等に関する規制の緩和	・開発等に関する各種規制の緩和の検討。

7. 地域団体へのヒアリング等の結果

びわこ文化公園都市内および近隣の小学校区連合自治会等の代表者に対し、びわこ文化公園都市に関する課題や将来に向けた期待等についてヒアリングおよびアンケートを実施した。

(一部集計中)

(1) 大津市の地域団体に対するヒアリング等の結果

1) 対象団体

- ・上田上学区自治連合会、青山学区自治連合会、瀬田学区自治連合会、瀬田北学区自治連合会、瀬田南学区自治連合会、瀬田東学区自治連合会、大津市瀬田東文化振興会、大津商工会議所

2) 結果

びわこ文化公園都市の評価

大分類	小分類	内容
環境		・多くの施設があって恵まれた環境である。
交通アクセス		・自転車や徒歩での利用が多い。

びわこ文化公園都市の課題

大分類	小分類	内容
施設等に関する課題	駐車場の不足	・びわこ文化公園(文化ゾーン)のバス駐車スペースがあまり活用されていない。また、乗用車は満車になることが多い。
	サービス施設の不足	・食事ができる場所がない。
	樹林等の管理に関する課題	・草刈などの管理が行き届いていない箇所があり、ゴミの不法投棄も一部にみられる。
安全性に関する課題		・人通りが少なく、街灯も少ないため、日没後などに不安を感じることもある。
広報に関する課題		・アイスアリーナはPR不足である。もっと広報すれば地域住民等が活用できる。 ・遠くに行かなくても各施設では結構楽しめるイベントや取組があるのに、それが知られていない。
連携に関する課題	大学等との交流不足	・イベント時を除いて大学と日常的な交流はない。

将来に向けた期待

大分類	小分類	内容
都市の将来像	ゾーニング	・各エリアに特長を持たせた利用方法の適正化
交通アクセス性の向上	アクセスの向上	・バスの利便性の向上
	駐車場の拡充	・びわこ文化公園(文化ゾーン)の駐車場の拡充
地域との連携による取組みの促進	連携による利用の活性化	・日頃から個人の利用は多く、また様々な専門家もいるので、各施設や大学と地域住民との連携による取組みはもっとできる。
	施設利用の活性化	・地域住民や子どもを対象とした教室の開催などによる施設利用の活性化
	施設活用の仕組みづくり	・公園利用の公平な開放、利用方法の検討
	ウォーキングによる利用の促進	・自然や歴史資源、施設などをルートに組み込むことによるウォーキング利用の促進

利便施設整備		<ul style="list-style-type: none"> ・文化ゾーン内の飲食施設等の整備 ・ウォーキング時に利用できるトイレの整備
広報の充実	-	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関する広報の充実による利用の活性化
イベントの開催		<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えて交流できるイベントの開催 ・周辺も含めた歴史資源を活かした企画展の開催
その他	-	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林地の再生（マツタケ山の再生）

(2) 草津市の地域団体に対するヒアリング調査の結果

1) 対象団体

- ・志津南自治連合会、南笠東学区自治連合会、玉川自治連合会

2) ヒアリング結果

びわこ文化公園都市の評価

大分類	小分類	内容
住環境		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館や病院もありいい環境である。
交通アクセス		<ul style="list-style-type: none"> ・新快速も止まるようになってさらに便利になった。 ・駅からのバス便も多い。
利用		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生から大学生、親子連れなど幅広い利用がある。

びわこ文化公園都市の課題

大分類	小分類	内容
居住階層にする課題	高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期からの入居者が多く高齢化が進んでいる
交通施設に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴いバス交通が重要になっているが、現状は横の移動が難しい。
連携不足		<ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備は終わったがソフトの整備ができていないので集積が活かされていない。

将来に向けた期待

大分類	小分類	内容
交通アクセス性の向上	公共交通によるアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・2市が連携したびわこ文化都市内を循環するコミュニティバスの運行
施設整備の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の人々が訪問したくなるような施設整備（琵琶湖の眺望スポット、道の駅、周回道路等）
地域との連携による取組の促進	連携による地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で取り組む河川の生物観察に係る上流の大学や施設との連携促進 ・「みなくさまつり」のような大学や企業との連携した取組の推進
	連携のための仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一の時に備えて日頃からの情報共有が必要 ・高齢化や防災への対応は地域としても大変重要であり、地域連携協議会のテーマになりうる

8 . 中間取りまとめに関する意見募集の結果

「びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会」中間取りまとめ（平成 24 年 3 月）について、平成 24 年 3 月 21 日から 4 月 20 日にかけて意見募集を行った結果、8 人（団体）の方から 29 件の意見が提出された。

ビジョンの示し方に関するもの（1 件）

- ・財政難などから、福祉・教育・文化ゾーンとしての目的を達成していない。改めて、社会的変化を踏まえた次代への施設ビジョンと各施設の良さを融合させた新たな「びわこ文化公園都市」として新たな価値の創造を図ったビジョンを示すべき。

地域住民の参画に関するもの（2 件）

- ・将来ビジョンは、地域経済の振興やまちづくりにつながるべき。そのためには地域の方々が参画した主体的な取組が必要。中長期的な推進にあたっては「地域発」という視点を明確にすべき。
- ・将来像実現のための会議には、地元で活動しているメンバーが参画するべき。

施設連携、機能関係に関するもの（6 件）

- ・「びわこ文化公園都市の将来像と方向性（5）いのちと健康を支える場」に記載の取組例からは課題解決につながるように思えない。隣接する龍谷大学との連携を強化するべき。
- ・具体的な事業に基づく機能関係を提案する。
 - 未処理下水道熱の利用など、エネルギーの地産地消
 - 里山の間伐材など「地域資源を用いた持続的な防災」といった観点からの低炭素・循環型の都市モデル形成
 - 医療と連携した観光の新しい可能性の創出(外国人患者などのニーズに合致した受入環境づくりの検討など)
- ・福祉ゾーンの再開発（障害関連施設、大学、地域住民との触れ合いゾーンの設置）
 - 福祉用具の開発販売など、大学福祉施設提携での共同開発
- ・ウォーキング治療の創設。地元民と医師と患者が協働でびわこ文化公園都市ウォーキング周回道を歩き治療する。

施設の利活用に関するもの（５件）

- ・「わんぱく原っぱ」の利活用促進として、定期的に大学生が利用することにより安全性・利用頻度が向上する。
- ・子どもの工作、理科離れに対応するため、図書館や美術館、公園管理事務所の会議室で、龍谷大学や立命館大学の学生に教室を開放してはどうか。
- ・レイカディアエリアの会議室を文化芸術団体の練習場として活用
- ・国史跡源内峠遺跡、源内道、木瓜原遺跡等歴史資源の保存と観光活用
- ・この丘陵地は、江戸時代はマツタケの宝庫であった。地元ボランティアグループとの森の復活活動の取組

アクセス等に関するもの（３件）

- ・人と人との交流、国内外からの来訪者が気持ちよく滞在できる施設や交通体系などハード、ソフトの環境づくりに取り組む設計図を示してはどうか。（周辺は交通の要衝であるが、渋滞地域。最寄りの JR 瀬田駅には新快速が止まらず、国際基準のアイスアリーナも孤立している。交通体系がマッチしていない。）
- ・京阪電気鉄道石山坂本線の石山寺駅から延長して瀬田川を渡り、希望が丘文化公園野洲口または JR 篠原駅付近までの京阪湖南山手線を構築してはどうか。
- ・びわこ文化公園都市周辺道路の整備。新エネルギー利用の周回バスの活用。

施設整備等に関するもの（８件）

- ・福祉ゾーンの再開発（障害関連施設、大学、地域住民との触れ合いゾーンの設置）
 - 駐車場の整備
 - 交流スペースの造成（総合案内窓口や障害のある方が作った商品の販売、福祉用具等の販売、レストラン、コンサート会場、お祭り広場、公園、散歩道、遊具の設置等）
 - 自然エネルギーの共同利用（福祉ゾーン施設群の広大な屋根を利用した太陽光発電）
- ・文化ゾーンを広げ、県民がスポーツを楽しめる広場にしてはどうか。
 - 例えば、フライングディスクは龍谷大学や立命館大学にもチームがあり、誰でも楽しめるスポーツ。練習ができる環境を整備してはどうか。
- ・「わんぱく原っぱ」は小石が多く子どもにとっては危険。芝草の整備といった広場の整備を強化していただきたい。
- ・びわこ文化公園都市の各施設は太陽光発電等の新エネルギーで電力を賄うよう改善
- ・アイスアリーナを中心とし、野球場・テニスコート・サッカー場・グランドゴルフ場等を集中させた体育エリアの設定
- ・災害対策として、地下水の利用と避難所施設としての機能を整備